

### 『妊娠時の歯科治療』

女性にとつて妊娠、出産は一大イベントですが、そんな時に限って今まで治療を後回しにしていたむし歯が急に痛み出したり、歯ぐきが腫れたりした経験はありませんか。また、「出産を繰り返すたびに歯が悪くなった」というお話しをよく聞きます。そこで今回は、妊娠中や出産後に気を付けていただきたいこと、またその期間での歯科治療についてお話しします。

女性の世話に追われて自分の手入れができない、崩れなどが考えられます。特に妊娠中はホルモンバランスの変化により歯肉炎が起りやすい状態になっています。したがって、つわりがひどく歯ブラシが使えづらい時は、抗菌作用のある洗口剤などを併用し食後のうがいなどで食べかすを洗い流すことも一案です。また、乳幼児用の小さなブラシで歯みがきすることも取り組むやすいのではないのでしょうか。

## 妊娠前からの健診大切 むし歯、歯周病進行も

まず歯科を受診する時期ですが、原則的に妊娠初期と妊娠後期は治療を避けるべきでしょう。つまり、妊娠さんの体調が比較的安定している20週〜30週頃が望ましいです。レントゲン撮影については、撮影範囲が限られており線量も少ないため胎児への放射線の影響はほとんどありません。妊娠中の麻酔や外科処置は最小限にとどめたいですが、やむを得ず麻酔が必要となる場合があります。歯科領域で使用される局所麻酔薬は、通常の使用量で胎児に重大な悪影響を及ぼすことはないことが

全に使用できます。お薬に関しては外科処置と同様に、やむを得ない場合のみ使用し、適切な使用時期、使用量、使用期間を十分考慮し、妊娠中や授乳中でも安全に使用できる薬剤を用いますのでご安心下さい。

歯を悪くする代表的な病気はむし歯と歯周病です。妊娠中や出産後にこれらが進行・悪化する原因として、1. つわりがひどく歯が磨けない、2. つわりのため食べやすいお菓子などを四六時中食べてしまう、3. 出産のときに歯を食いしば

次に、妊娠時の歯科治療で心配となる事項についてお話をさせていただきます。

次に、妊娠時の歯科治療で心配となる事項についてお話をさせていただきます。

以上より妊娠時は何らかの治療制限を受けることは確かです。妊婦さんにも不安がよぎります。ですから妊娠前からの定期健診や治療が非常に大切です。是非、これから妊娠を予定されている方、妊娠中の方はお口の健康についてお考え下さい。(乙訓歯科医師会広報部 北村忠文)